

1 本年度の重点目標

豊かな関わり合いと振り返り・価値付けを通して、  
「なりたい自分・つくりたい集団」へと成長する学校

2 本年度の重点目標の具体化

- (1) 子どもへの働きかけ〈子どもとの合言葉〉  
「なりたい自分・つくりたい集団」に向かって  
「もう一步前へ!」「まずやってみよう」
- (2) チーム桜山として〈教職員同士/学校と家庭・地域〉  
積極的な発信・受信  
【教職員同士】 教職員全員で一人一人の子どもを育てる  
【学校と家庭・地域】 子どものよさや教職員の取組等を発信する

3 評価結果

分野	項目 No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成 状況	改善の方策	自己 評価の 適切さ	改善策 の 適切さ
学ぶ力の育成	1	子どもは、問いに対して「考えたい」という思いをもって取り組んでいるか。	A	児童アンケートの「疑問や課題を解決するために、自分で考えるようにしている。」に対して肯定的割合が昨年度より8.1%上がった。今後も子ども自ら問いをもち考えていくような授業を工夫していく。	A	A
	2	授業中に自分の考えや思いを伝えようとする姿（発言、反応、相槌などを含む）を価値付けてきたか。	A	児童アンケートの「自分の意見を進んで発言しようとしている。」に対して肯定的な割合が8.1%上がった。今後も、子どもが授業中に自分の考えや思いを伝えようとする姿を引き出し価値付けていく。	B	A
	3	子どもたちの「まずはやってみよう」という思いを価値付けてきたか。	B	児童アンケートの「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」に対して肯定的な割合は、昨年度とほぼ同じだった。自己肯定感を高め、難しいことにもチャレンジしていく子どもを育てていきたい。	B	A
豊かな心の育成	4	子どもは、学校で自分のよさや友達よさに気付いたり、友達に思いやりをもって接している。	A	児童、教職員によるアンケートの「人のよいところを見付けようとしている。」「学校で自分のよさや友達よさに気付いたり、友達に思いやりをもって接している。」に対して肯定的な割合が上がっている。今後も人のよさに目を向けることを大切にしていきたい。	A	A
	5	子どもは、自分から進んで挨拶をすることができる。	A	教職員アンケートの「子どもは、自分から進んで挨拶をすることができる。」に対して肯定的な割合が約30%上がった。今後は、家庭や地域の中で自ら挨拶ができる子どもを育てていきたい。	A	A
	6	子どもは、友達と協力して物事に取り組んだり、人の役に立とうと行動したりしている。	A	児童、教職員によるアンケートの「人の役に立てて、うれしいと感じることがある。」「子どもは、友達と協力して物事に取り組んだり、人の役に立とうと行動したりしている。」に対して肯定的な割合が上がっている。今後も人の役に立とうとしている子どものよさや協力する姿を価値付け、自己有用感を高めていきたい。	A	A

<p>評価委員より</p>	<p>校内での挨拶が前より減っている気がします。          学ぶ力の育成においては、自己承認を増やすために一人一人に目標達成の機会を増やし、より多くの児童が発言する機会を増やせると良いと思います。</p>					
<p>健やかな体の育成</p>	<p>7</p>	<p>子どもは、自分から体を動かしたり、元気に遊んだりすることができている。</p>	<p>B</p>	<p>児童、教職員によるアンケートの「自分から体を動かしたり、元気に遊んだりすることができている。」に対して肯定的な割合が上がっている。今後は、さらに子どもが体を動かしたくなるような場を工夫していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>8</p>	<p>子どもは、健康で規則正しい生活をしていることができる。</p>	<p>B</p>	<p>児童、教職員によるアンケートの「健康のために、自分には何が必要かを考えて生活しようとしている。」「子どもは、健康で規則正しい生活をしていることができる。」に対して肯定的な割合が上がっている。今後も、学習を通して健康の大切さを伝えるとともに、子どもが自ら健康と向き合えるように取り組んでいきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	
<p>9</p>	<p>子どもは、けがや事故のないように、安全に気を付けて生活することができる。</p>	<p>B</p>	<p>教職員アンケートの肯定的な割合が約15%上がった。今後もけがや事故がないよう子どもたちに指導したり、子どもにとって安心・安全な環境を整えたりしていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	
<p>評価委員より</p>	<p>義務教育学校への移行のため運動場が減っている中、様々な工夫をしていただいていると感じています。</p>					

信頼の創造	10	学校はいじめ問題に対し、いじめ防止基本方針に基づいた組織的かつ、迅速な対応をすることができている。	A	児童、保護者、教職員アンケートとも肯定的な割合が90%を超えている。ただし、この項目は最も重要と考えている。今後も日頃から児童や保護者の話を丁寧に聞き、いじめに対して迅速かつ的確に対応していく。また、いじめを生まない仲間づくりなど、未然防止の取組を行っていききたい。	A	A
	11	学校は、必要な情報を適切に発信できている。	A	保護者、教職員アンケートとも肯定的な割合が90%を超えている。今後もすぐーるやホームページ等を通して学校の取組や子どもの姿、さらに義務教育学校に関わる情報等をこれまで以上に発信していきたい。	A	A
	12	学校は、児童の実態や地域の特性を生かした、特色ある教育活動を展開できている。	A	保護者、教職員アンケートとも肯定的な割合が上がっている。今後は、さらに様々な施設や地域の方々に御協力いただきながら、地域を生かした教育活動を展開していきたい。	A	A
	13	子どもは、一人一台端末を適切に活用できている。	B	児童アンケートの『端末（クロムブック）の「ルール」や「使う目的」を考えて、正しく使うことができている。』の肯定的な割合が95.2%であった。今後は、学習での更なる有効活用について教員の研修を深めていききたい。	B	A
	14	子どもは、学校行事を通して、友達のよさを認めたり、自分のよさに気付いたりすることができる。	A	児童、保護者、教職員アンケートとも肯定的な割合が90%を超えている。今後も行事を通して子どもたち自身が成長を実感できるよう価値付けていききたい。	A	A
	15	子どもは、異学年交流などを通して、他者と積極的に関わっている。	B	休み時間や様々な行事を通して異学年交流を行っている。義務教育学校においても、1～9年生の関わり合いは、互いに憧れや思いやり等の心を育むために大切な活動と考える。義務教育学校開校に向けてよりよい活動の在り方を検討していきたい。	A	A
評価委員より	<p>子どもたちの育成、教育に従事される教員、学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。学力や体力の向上の重要性は理解いたしますが、同様に項目10にありますいじめ対策により一層の御尽力をいただくようお願いいたします。年々増加している自殺、いじめ、不登校、DV等に思い悩む子どもたちを助ける取組を強化していただきようお願い申し上げます。</p> <p>クロムブックのルールや目的の運用について、義務教育学校になった後、1～6年生と7～9年生の間での活用方法や区分を明確化する必要があると思います。大変かと思いますが、社会全体で悪い例も出ている話も含め、基準の構築をお願いします。</p>					